

1.日 時：平成 28 年 6 月 15 日（木） 13 時 30 分～15 時 30 分

2.見学場所：株式会社ダイヘン殿 六甲事業所

3.説明者：溶接機事業部 企画部長 山口 耕作 様

FA ロボット事業部 製造部 ロボット製造課長 大谷 明広 様

株式会社ダイヘンテクノス 応用サービスセンター 吉野 貴統 様

4.出席者：12 名（事務局含む）

5.概 要

今回、アーク・プラズマ加熱技術部会では、会員会社でいらっしゃる株式会社ダイヘン殿の六甲事業所を見学した。同事業所は六甲アイランド内にあり、摂津市にあった事業所を移転し 2008 年 1 月から操業を開始した事業所で、溶接機そのものの生産拠点は鳥取や海外だが、溶接機+FA・クリーンロボット事業の生産拠点である。

株式会社ダイヘンは、1919 年に大阪変圧器としてポルトランスを製造する会社として設立され、早くも 1934 年には変圧技術を生かして溶接機の供給を始めており、国内ではアーク溶接機のトップシェアを維持している。現在は、高い FA ロボット技術と溶接機技術を組合せ「溶接メカトロ事業」に注力し展開しており、アーク溶接用ロボットのシェアは国内外でトップを誇っている。

会議室での説明後、テクニカルセンターに案内していただいた。ショールームの展示品を見た後、ロボット実演場で、5 台のロボットが協調して常に品質の良い下向き溶接姿勢を保つ組立溶接、溶接ワイヤとワークの間隔を高速高精度で制御する極低スパッタ溶接(実演ではスパッタは全く目視できず)等のデモを見せていただき、高度なロボット技術+溶接技術を実感できた。



次にロボット工場を案内していただいた。「ロボットがロボットを製造する」といったコンセプトで、全自動化工場を目指しており、人手を要しているのはケーブルなど一部の組立と出荷前検査くらいで、搬出入・搬送は勿論、鋳物加工後のバリ取り、穴開け、組み付け、AGF の給電(非接触給電)なども自動化されていた。構内 GPS を用いた更に高度な自動化に取り組んでいるとのこと。

会議室に戻り、「東京タワーはリベットでスカイツリーは溶接であるように溶接技術は進歩しているが完成はしていない」と、さらなるアーク溶接技術の進化への取り組みの言葉をお聞きして事業所を後にした。



会議室での説明



六甲事業所 ロビーにて